

地球環境研究分野(総合)

委員会からの主要意見

現状についての評価・質問等

- 第3期中期計画の最終年度として、着実な成果をあげた。[年度]
- 質の高い研究が継続され、論文発表等も活発になされている。また、IPCC 第5次評価報告書への貢献など、国際的にも高い成果を上げている。[事後]
- 研究分野、研究プログラム、環境研究の基盤整備はそれぞれ優れた成果を挙げているが、相互の連携による価値の創出についてはどのような戦略になっているのか？[事後]

今後への期待など

- IPCC への引用は大きな成果発信であるが、より一般の理解を深めること、そして、政策決定と世界的合意への直接的貢献を図っていただきたい。[年度]
- 地球温暖化についてのモデル計算を経済面も含めて行っていることは重要であるが、地球環境問題が経済問題に帰結する訳ではないことももう少し検討してほしい。[事後]
- 地球環境に対し、大学と異なる国環研の役割を明確にし、これからの課題の提案を期待する。[事後]

主要意見に対する国環研の考え方

- ①総合的な研究活動によって、気候変動分野やそれ以外の地球環境研究への展開を図ってきました。相互の連携につきましては、研究分野や基盤整備から出てくる新しい測定法や、長期的な精度の高い広域データは、プログラムの解析データの一部として使われることで、連携を生んでいます。その連携を基に、例えば、プログラムでの観測系の層の厚い研究成果を出すこともできていると考えています。今後とも、各研究領域と連携しながら、研究を進めたいと考えています。
- ②一般の理解等につきましては、ステークホルダーとの対話などを通じた一般市民の理解を進めることと、政策決定者へのインプットなどを狙っています。世界的合意形成への支援なども含め、全体として客観的科学的事実などの提供に今後も努めていきたいと思えます。
- ③地球温暖化の影響・対策評価におきましては、経済の問題に加えて、我々の価値選択の問題であることも今後重要な視点となると考えています。
- ④大学と異なる役割につきましては、長期的な広域の国際的観測やモニタリングを組織的に維持できるのは国の研究所の特徴でありますので、今後ともその特徴を生かしていきたいと考えています。